

2 0 2 2 1 2 3 1

西村 美弥子

遅い朝

冷蔵庫を開けようとして
ドアの赤いシミに驚く
と同時に思い出す。

昨夜のケチャップだ

すぐにふき取り赤は消えた。

ワインが残った頭でぼんやり考える

まあ考えても仕方ない。

人並みに長く生きてきても ママナラナイ この感情。

他人の言動を変えるのは

はるか昔にあきらめた。

上手にすり抜ける術も身についた。

きれいになった冷蔵庫のドアを開け

野菜選び

いつものスープを作り始める。

暖かく滋味のあるスープを口にし

冷蔵庫を振り返る。

私もまだ枯れていないということか

忌々しく思えた赤。

消えてしまった跡から

エールを送られている。

2 0 2 3 年 1 月 2 8 日 最終推敲